

# オープンキャンパスのご案内

山大音研では来たる 8 月 5 日の午後 1 時から 4 時まで、教育学部音楽棟にてオープンキャンパスを開催します。予定している内容は次のとおりです。

## ◎カリキュラム説明

山大音研は、小学校や中学校や高校で音楽を専門に教える教師を育成しています。

オープンキャンパスでは、大学 4 年間で習得することを、大学での授業の様子を映像で見ながら詳しく説明し、みなさんが疑問に思っていることにわかりやすくお答えします。



たとえば……

- ・音楽教師に必要とされる基礎基本はどのようにして身に付けるのか。
- ・教育実習 (=初めての教師体験) に向けてどのような学習をするのか。
- ・教員として身に付けるべき、指導実践における専門性はどのように磨かれるのか。
- ・ここ数年の卒業後の進路はどうなっているのか。

——などなど

## ◎公開レッスン (声楽・ピアノ)

山大音研では、学生の音楽的専門性をより高度なものにするために、実技レッスンにも力を入れています。オープンキャンパスでは、公開レッスンとして、どのようなレッスンをおこなっているかを見ていただけます。

声楽学習にとって最初の困難は、それぞれ生まれもった声を使用しなければならない点です。それぞれの声の質や色は生来のもので、気分で交換することはできません。まずはその唯一無二の声を肯定するところがスタート地点です。

歌唱技術を身に付けることは、自身を拡張するような感覚があります。自分の限界だと感じている壁を取り払い、レッスンを通してまだ見ぬ技術や表現に出会うことで、自身のさらなる可能性に気がつくことができるはずです。また、レッスンにおいては学生同士の鑑賞を勧めています。様々な声種、あるいは課題克服の過程をとともにすることは、自身の振り返りや新たな発見に繋がるのみならず、学校現場でふれるだろう児童・生徒の多様なケースに応じた、実践的な引き出しになるでしょう。

今回の公開レッスンでは、声楽初学者の教材として広く普及しているパリゾッティ編「イタリア古典歌曲集」を取り上げます。声楽歌唱に最も適していると言われるイタリア語で書かれたこの作品を通して、発声や発音に関する技術と作品の様式にあった曲想、またそれを表出するための方法について学んでいきましょう。

(文責：白岩洵)





「楽譜を読む」ということ、これは単に、音、リズム、強弱、アーティキュレーションなど、譜面上に書かれてあることを見逃さずに読み取るだけではありません。そこから作曲者が何を伝えたいのか、或いは何を感じ取ってほしいのかということを読み取ることが重要で、それを音で表現していくことが「演奏」につながります。そして演奏に際しては、柔軟に身体を使いながら、奏でた音を身体で聴くことが求められます。

公開レッスンでは、ベートーヴェンの中期のソナタを採り上げます。耳の病を克服し、芸術家としての運命を全うしたいという内容の「ハイリゲンシュタットの遺書」がしたためられた時期と重なりますが、彼は強靱な精神力でこの苦悩を乗り越え、新しい音楽を作り出していき、ピアノ音楽においても更なる表現方法を追求していきます。そうした思いを汲み取りつつ、作品をどのように音で表現していくかを、レッスンでご覧いただきたく思います。(文責：友清祐子)

### ◎合唱体験

変声期（特に男子！）は急に声が低くなる中学生の時期に訪れると捉えられがちですが、実は小学校高学年で第一段階が始まるケースが多く見られ、大学生くらいの年齢で安定します。したがって、大学では、小・中・高校とはひと味違った合唱の響きを体験することができます。さあ、あなたも一緒に合唱を体験しませんか。

### ◎演奏発表

二重唱、ピアノ独奏、ピアノ連弾、サクソフォン二重奏

### ◎座談会

少人数のグループに分かれて、在学生とのフリートークを予定しています。打ち解けた雰囲気なかで、学習環境や大学生活の様子など、いろいろな質問にお答えします。



みなさんのお越しを

お待ちしております！

お問い合わせは下記メールアドレス（斎藤）までお願いいたします。

[mnsaito@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:mnsaito@yamaguchi-u.ac.jp)

「山大音研」で検索すると、当教室のHPをご覧いただけます。

なお、悪天候などによるオープンキャンパス中止や延期に関する情報は大学HPをごらんください。